

北海道医療大学 医療技術学部臨床検査学科

幸 村 近*[§] 吉 田 繁* 田 中 真 樹*

はじめに

1974年、知育、徳育、体育の三位一体教育を建学の理念として創立された本学は、2020年で46年目となり、50周年を迎えようとしています。本学は「新医療人育成の北の拠点」として地域医療へ貢献する専門職業人を育成することを社会的使命とする医療系総合大学です。現在、薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部、医療技術学部の6学部および5つの大学院研究科さらに歯学部附属歯科衛生士専門学校から構成されています。

医療技術学部臨床検査学科は昨年新設されました。このたび紹介文を寄稿する機会をいただきましたので、大学の沿革や今後の展望などを含めてお伝えしたいと思います。

I. 北海道医療大学の沿革

北海道医療大学は1974年の設立時に薬学部、1978年に歯学部、1993年に看護福祉学部、2002年に心理科学部、2013年にリハビリテーション科学部、そして2019年に医療技術学部が開設されました。現在では6学部9学科(薬学科、歯学科、看護学科、臨床福祉学科、臨床心理学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科、臨床検査学科)と歯学部附属歯科衛生士専門学校より構成され、総学生数3,500名を超える北海道では

最も規模の大きい医療系総合大学となっています。

II. 医療技術学部・臨床検査学科の概要

本学のメインキャンパスは札幌市の北東部に隣接する当別町にありますが、医療技術学部は札幌市北区の札幌あいの里キャンパスに、大学附属機関である北海道医療大学病院、地域包括ケアセンターとともに立地しています(写真1)。札幌駅からJRで約20分のあいの里地区は、明治時代にこの付近一帯で藍の栽培が盛んであったことが名前の由来です。北海道教育大学札幌校も同じ地域にあり、教育には適した環境です。本学部本学科は、北海道・東北以北で初めての臨床検査技師を養成する4年制私立大学として2019年4月に定員60



写真1 札幌あいの里キャンパス
(医療技術学部と北海道医療大学病院)

* 北海道医療大学医療技術学部臨床検査学科 [§] ckohmura@hoku-iryu-u.ac.jp

名で開設されました。これまでは、北海道内で臨床検査技師を目指し4年制大学への進学を希望する高校生にとっての選択肢は北海道大学だけでした。本学部が新たな選択肢として加わり、札幌のみならず北海道全域そして東北地域の高校生が本学部に興味を示していただきました。初年度は72名、2年目は73名の学生を迎えました。専任教員数は教授7名(臨床検査技師3名、医師3名、歯科医師1名)、特任教授2名、講師6名(臨床検査技師6名)、助教2名(臨床検査技師2名)、全学教育(化学、英語)担当の講師2名の19名で構成されています。そのうち臨床検査技師である教員は博士号(9名)、5年以上の実務経験(6名)、他大学で専任教員としての教育経験(3名)、専門分野の認定資格(6名)を有しています。また、医師である教員の1名は臨床検査専門医です。設備面では、学内に3つの実習室(検体検査2室、生理機能検査1室)と2つの研究室を設置し、生化学自動分析機器、自動血球計数機器、フローサイトメーター、超音波検査機器などの基本的な実習に必要な機器から、質量分析器、超遠心機、細胞培養機器、遺伝子解析関連機器など研究に必要な機器を整備しました(写真2)。このように臨床検査の現場を熟知した教員が多いことや設備を活かし、より実践的な臨床検査学の教育・研究を目指しています。

III. 開設初年度の経過

初年度は入学直後に1泊2日の新入生オリエン



写真2 研究室(細胞培養室)

テーションを実施し、グループワークやレクリエーションを通じて学生間や教員との親睦を深めた後に前期授業が開始されました。前期は全学教育の時間数が多いものの、生理学、解剖学、生化学などの基礎科目、医学概論などの専門科目も始まります。また本学では医療系総合大学という特徴を活かした多職種連携教育を全学共通で実施します。さまざまな医療職に対する理解を深め、全学科の1年生が混成した小グループを作り、ディスカッションやグループワークを通じ、チーム医療に必要なコミュニケーション力、他者の理解、協調性などを養います。このほか、臨床検査を広く理解するための導入的な講義と北海道医療大学病院での見学実習を実施します(写真3)。医療の現場を実際に体感し、将来、自分が臨床検査技師そして医療人となった姿を重ね合わせることで、学習意欲を高め、目標を再確認する機会でもあります。

IV. コロナ禍となった2年目の経過

初年度の日程を終え、成績不良者の退学・留年は数名生じましたが定員以上の人数が2年目に進みました。2020年1月からの新型コロナウイルス感染症の流行により2020年度入試は最後に行われた一般後期入試の面接を中止せざるを得ませんでしたが、それ以外は予定通り実施されました。新入生関連の行事は、AO入試、推薦入試合格者に対して2019年12月に入学前説明会を行うことができましたが、入学式、新入生ガイダンスなどを含む主要行事は4月7日の緊急事態宣言発出



写真3 北海道医療大学病院での見学実習(2019年)

以降すべて中止となり、1月～2月の入試で合格した過半数の1年生は7月下旬に設けた登校日までは一度も登校できませんでした。4月中に電話での状況確認と遠隔授業開始前のネットワーク接続テストを行い、5月の連休明けにオンラインでのガイダンスを行いました。

1. 遠隔授業

講義は5月11日よりすべてZoomミーティングを利用して遠隔授業を開始しました。講義資料はオンラインに置かず、事前に印刷物を郵送しました。講義の双方向性はZoomの持つチャット機能とGoogleフォームを用いた毎回の課題提出時の質問欄で確保し、さらに個別のメールも受け付けました。出席はGoogleフォームによりリアルタイムで確認しました。欠席者はほとんどなく、課題もほぼ全員が提出できていました。5月末に施行したアンケートでは、オンライン授業に対する否定的な回答は1割のみで、多くの学生が積極的に受け入れていましたが、ネット接続に関連する何らかのトラブルは約半数が経験していました。対面講義の開始については1年生の8割が希望し、そのうち全講義を対面で受講したいという通常の登校形態を希望するものが4割と多かったです。2年生は8割がオンライン授業の継続を希望しました。

2. 登校再開後

緊急事態宣言解除を受けて6月15日から2年生の登校を認め、基礎医学科目の実習を開始しました(写真4)。内容は感染対策のための変更、



写真4 実習風景(2020年)

修正を施しました。1年生は夏休み後の定期試験から登校を開始し、以後は基本的に学年で登校日を分け、対面授業とオンライン授業を併用しました。9月に施行したアンケートでは、オンライン授業に対する否定的な回答は14%でした。対面講義の希望については、全講義を対面で受講したい学生が18%で、1回目の30%より少なくなっており、なかなか改善しない感染状況を反映すると思われました。

V. 今後の対応、完成年度へ向けて

今後も登校時間の分散や遠隔授業併用などの措置が必要となります。来年度3年生は実習主体であり、一層の感染対策が求められます。また臨床実習前実技教育および評価に続いて学外での臨床実習が予定されています。北海道内各地および東北出身者の地元病院で2ヵ月間の臨床実習を実施する予定です。そして完成年度である2022年度の4年次は卒業研究と国家試験に向けての総まとめによって国家試験の全員合格を目指します。第1期生が卒業する2023年には大学院の設置を計画しています。

おわりに

開設して間もない2年目に想定もしなかったコロナ禍となり、学生たちは不安なことも数多い月日でしたが、この試練を乗り越えて未来に向かってほしいと思います。北海道医療大学が今まで世に輩出した2万名を超える卒業生が全国でたゆまぬ努力を続けています。明確な四季を持つ北海道の恵まれた環境において、移り行く季節の中勉学に励みつつ、充実した学生生活を送ることができるよう最良の教育を実践していきたいと考えています。この歴史と実績のある大学に新しく加わった医療技術学部から、優秀で意欲的な人材を送り出すべく決意を新たにしています。先達の諸先生のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。